

本音の コメンタリー



異次元緩和突入六年目にして、五月の消費者物価前年比は0・6%。物価はなかなか上がらない。日銀は今月下旬の金融政策決定会合で、物価情勢の集中討議を行う由。では他国はどうか。

金融危機以降の欧米主要国では、物価情勢はどうも二〇一五年ごろが底で、その後は持ち直しつつある。五月の消費者物価前年比をみると、米2・8%、英2・4%、欧州は国により差があるが、ユーロ圏平均で1・9%という具合だ。アマゾン効果といわれる、ネット通販拡大による物価押し下げ効果は、どの国にも同じように及んでいくはず。彼我の差はいっ

り百合
さゆり
かわむら
河村

差の力を押し上げる物価

たい、どこから来るのか。
答えは物価を押し上げる経済の基礎体力の差ではないか。潜在的な成長力が高ければ、物価もシリシリと上がるはずだ。

異次元緩和がスタートした一三年は、東日本大震災後まだ二年目。その後遺症が尾を引いていた日本経済を実力ベースの成長軌道に戻す意味では異次元緩和は効果があった。だから一年目は物価も改善した。

ところが、この国の経済の実力、潜在成長率は一向上がらない。金融政策で上がるものではないのだ。人口減トレンドはやむを得ないとしても、国全体の研究開発力、企業の国際的な競争力、国民全体の生産性も伸び悩む。だから物価はそう簡単には上がらない。そう思えてならない。(日本総研上席主任研究員)

2018.7.5